

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2371301090
法人名	有限会社 ライフケアみおつくし
事業所名	グループホーム 安楽樹
訪問調査日	平成19年11月15日
評価確定日	平成19年12月20日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2371301090
法人名	有限会社 ライフケアみおつくし
事業所名	グループホーム 安楽樹
所在地	名古屋市守山区笹ヶ根一丁目101番地 (電話) 052-739-3722

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年11月15日	評価確定日	平成19年12月20日

【情報提供票より】(平成19年10月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	15人, 非常勤 1人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,100 円	

(4) 利用者の概要(平成19年10月27日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	5名	要介護2	6名		
要介護3	2名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 77.3 歳	最低	66 歳	最高	89 歳
協力医療機関名	吉田クリニック・山田歯科医院・旭労災病院・北医療生活共同組合北病院・愛知さわやかケアセンター				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは緑豊かな自然に囲まれた静かな住宅にあり、正面には山があり春には竹の子堀り、秋には柿が採れ入居者の楽しみとなっている。玄関はスロープが付けられており、家族が持ち寄ったプランターで花を育てている。ホームの駐車場には、物干し場があり入居者が使いやすい高さに配慮されていた。夏には流しそうめんやバーベキュー、秋には秋刀魚を焼いたり季節毎に楽しんでいる。誕生日会やクリスマスなどのイベントには、家族にも参加を呼びかけている。職員の休憩時間が確保や親睦会などストレスの軽減に努めている。問題が起きた場合には素早く対応しており、職員の異動もなく安定している。ボランティアの訪問や保育園より運動会に招待されたり、ホーム行事に地域の方へ参加を呼びかけるなど積極的に地域との交流を図っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	評価を通して出てきた課題に対しては、カンファレンスで具体的に話し合い、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価についてより具体的に質の向上に向け、書き方など細かい所まで説明し、職員一人ひとりが取り組み管理者が取りまとめた。人により2週間程度、時間を要した人もいる。忙しい中、時間を見つけ頑張って取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議のメンバーは、自治会長や民生児童委員長、グループホーム知見者、家族代表となっており、家族全員に運営推進会議の案内を送付している。事前に資料の送付もしており、会議は2カ月に1回開催している。メンバーからは、体験談や意見交換が活発にされ議事録は家族に送付している。職員にはカンファレンスで説明し情報を共有している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱が玄関に設置されているが、家族は直接管理者に話すことが多い。来訪時には、事務所に寄ってもらい話しをしている。状況に応じて、入居者の居室で話すこともある。また、苦情相談機関としてホーム担当者以外に、愛知県国民健康保険団体連合会や名古屋市健康福祉局介護指導課の相談窓口を重要事項説明書に明示している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており地域の草むしりや清掃に参加した。近隣の保育園より運動会に招待してもらったり、町内の秋祭りには獅子がホームに来訪し舞いを披露してくれた。地域の盆踊りには練習から参加し本番に備えた。地区の組長にホーム便りを届け見てもらっている。また、ホームの行事には地域の方に声をかけ参加を呼びかけている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ごく普通の家庭生活を人間の尊厳を重視しながら自尊心を高める。一日の大切さに感謝して心穏やかに安心して毎日を楽しむ暮らし」を理念とし、さらに6項目に分け、明確に解釈が付けられ掲示されている。地域密着型サービスとしての役割を理解しており、地域との関わりも積極的に取り組んでいる。		社員マニュアルの中に地域との関わり方について記載されており、職員に周知されている。今後は、理念の内容にも地域との関わりについて反映されることを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員には社員マニュアルが配布されている。理念や地域との関わり方などが記載されており、項目に沿って日々の介護に活かしている。また、会議などでも管理者より話しがされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており地域の草むしりや清掃に参加した。近隣の保育園より運動会に招待してもらったり、町内の秋祭りには獅子がホームに来訪し舞いを披露してくれた。地域の盆踊りには練習から参加し本番に備えた。地区の組長にホーム便りを届け見てもらっている。また、ホームの行事には地域の方に声をかけ参加を呼びかけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価についてより具体的により質の向上に向け、書き方など細かい所まで説明し、職員一人ひとりが取り組み管理者が取りまとめた。人により2週間程度、時間を要した人もいる。忙しい中、時間を見つけ頑張って取り組んだ。評価を通して出てきた課題に対しては、カンファレンスで具体的に話し合い、改善に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議のメンバーは、自治会長や民生児童委員長、グループホーム知見者、家族代表となっており、家族全員に運営推進会議の案内を送付している。事前に資料の送付もしており、会議は2カ月に1回開催している。メンバーからは、体験談や意見交換が活発にされ議事録は家族に送付している。職員にはカンファレンスで説明し情報を共有している。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>名古屋市介護サービス事業者連絡研究会（名介研）に市の職員がオブザーバーとして出席しており意見交換をしている。保護係担当者に入居者の状態を相談したり電話連絡するなど連携を密にとっている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時には、管理者から入居者の状況や様子について説明している。来訪時以外にも必要に応じて電話連絡を行っている。ホーム便り「やすらぎ」を年4回発行しており、家族に送付している。金銭管理はホームでは行っておらず、買い物などは立て替え、家族の来訪時に支払いをお願いしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱が玄関に設置されているが、家族は直接管理者に話すことが多い。来訪時には、事務所に寄ってもらい話しをしている。状況に応じて、入居者の居室で話すこともある。また、苦情相談機関としてホーム担当者以外に、愛知県国民健康保険団体連合会や名古屋市健康福祉局介護指導課の相談窓口を重要事項説明書に明示している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の異動はなく職員はユニットで固定されている。日々、管理者と職員、職員同士の話し合いが行われ、希望休や休憩が取れるよう配慮している。お互いによく話し合うことで、職員の定着率も安定している。休憩室にはベッドが用意され、足を伸ばして休むことができ、休憩時間が1時間確保されている。また、年2回親睦会を開催している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を職員に提供しており、職員は交代で参加している。参加した職員は資料をホームに持ち帰り、レポートの提出と勉強会を実施している。ホームは資格取得を推奨しており、職員のスキルアップのため、今年は介護福祉士などの試験に職員が挑戦した。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの関わりはあるが、管理者が主であり、職員同士の交流までには至っていない。		職員が同業者との交流の機会を通じて、情報交換やサービスの質の向上につながるよう今後の取り組みに期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅を訪問し、本人や家族と時間をかけて話し合う機会を設けている。希望により見学や体験入居も可能である。見学時には、入居者と一緒にお茶を飲んでもらったり、雑談したり楽しんでもらい、コミュニケーションを取りながら、馴染みの関係を築けるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の能力を活かしてもらえよう場面づくりに心がけ、できる事から行っていただくように支援している。食事の準備や片付け、掃除など職員と一緒に協力しながら行っている。職員が落ち込んでいる時に、入居者から励ましてもらったり、ビデオを観て一緒に涙を流したこともある。訪問時にも職員が帰宅する際に「ご苦労さんだったね」と入居者が声をかけていた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者時にアセスメントをとり入居者の意向や希望を把握している。その後は日々の行動や表情など介護記録に記入し、情報を職員全員で共有している。介護記録をもとに申し送りノートを活用し現状の把握に努めている。家族などには電話連絡をしている。日々の生活で本人が何をしたいのか、希望を聞きレクリエーションに取り入れたりしている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月1回のカンファレンスで日々の入居者の状況を職員で話し合い、家族と相談し意向を聞きながら介護計画を立てている。日々のケアの中で介護計画が反映しているか、していないかを毎日チェックし、介護日誌の欄に記入し職員が確認している。職員全員参加のカンファレンスであるため、意見が出しやすい雰囲気がある。入居者の変化において随時職員と話し合いをして計画に反映している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しは長期目標6カ月、短期目標3カ月で行っている。月1回のカンファレンスを行い話し合いをしている。また、カンファレンス以前に対応変更すべき変化がみられたら、その都度職員で話し合い、本人や家族と相談し計画を見直している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算を受けており、定期的に看護師の訪問があり、24時間連絡をとれる体制である。協力医療機関、地域のかかりつけ医に加えて整形外科、総合病院等への通院介助の支援をおこなっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>契約時に協力医療機関の利用の同意を入居者、家族から得ている。月2回の往診があり、医療体制は整えられている。インフルエンザの予防接種も職員とともに往診にて実施している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時に重度化した場合における対応の指針(できる限りの支援)について入居者、家族に説明し理解を得ている。医療機関に重度化した時の対応のアドバイスを得ている。職員は研修にも参加し積極的に取り組んでいる。糖尿病の方のインシュリン接種は手を添えるなどの支援をしている。看護師は24時間対応可能な体制である。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者は常に人生の先輩であるという認識のもと、日頃から傾聴する姿勢を持って接し、言葉遣いにも気をつけている。情報については、個人情報保護法に基づき、記録など個人に係る書類は、外部に漏れることがないように適切に管理している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者が希望することを支援できるよう努めている。美容師の訪問が2カ月に1回あり、職員が毛染めをしたり、飲酒は正月、イベント、外食の時など入居者の希望に応じ、対応できる範囲で支援している。また、日々の生活の中で寝坊される入居者には無理に起こさず、本人のペースを尊重しながら支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理から片付けに至るまで、入居者一人ひとりのできる事を把握し、分担しながら、職員と一緒に進めている。食卓テーブルの椅子は、個々に座布団や敷物を敷いたりしている。茶碗、湯のみ、箸などは、個人の物を使用し、ホームにしながら家庭にいる時と同じような安心感を持ち、食事をさらに楽しむことができる。職員は3人中2人が入居者と一緒に食事を摂り、1人は安全を第1に考え見守りに徹している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に週2~3回となっており、希望があれば、状態に応じて入浴できるよう支援している。入居者の負担を軽減するため、シャワーチェアを用意している。夏場はシャワー浴を取り入れ、一番風呂は順番を決めて、交代で入浴してもらい、入居者の希望に合わせている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	近隣の保育園への訪問や、保育園の運動会の練習に参加している。季節の良い時期には、ホームの敷地内で秋刀魚、バーベキュー大会を行っており、入居者や家族も楽しんでいる。カラオケへ出かけたり、クリスマスには職員による寸劇、ボランティアの落語などを披露している。日々の生活の中では入居者の希望を取り入れながら、貼り絵や絵画、おはじき、クロスワードパズル、クイズなどのレクリエーションを行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、ランチ、喫茶店に出かけたりしている。冬場は洗濯物が乾きにくいいため、コインランドリーに入居者も一緒に行っており、日常的に外出支援に取り組んでいる。また、外出に意欲のない入居者には、出かけてみたいと思ってもらえるよう、家族に協力してもらい、家族と一緒に外出する機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解している。建物の構造上死角があり、安全確保と事故防止のため、ミラーを設置し、職員の目が届くように工夫している。また、非常口付近には防犯ブザーを設置している。玄関は施錠していないが各棟入り口は必要に応じて施錠していることもある。玄関に事務所があり、常に職員がいるため安全面は確保されている。各棟の施錠については、対策をたて鍵をかけないよう検討していきたいと考えている。		玄関を出るとすぐに急な坂道になっていることから、安全面や家族からの希望もあり、玄関は施錠していないが、各棟の入り口は必要に応じて施錠していることもある。今後、対策をたて検討していきたいと考えていることから、実現に向けた取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、定期的に防災訓練をしている。緊急時の避難経路や対応の指導を受けている。災害時の連絡手段の一つとして、災害用伝言ダイヤル171番の利用を、家族に書面で情報提供と協力を呼びかけている。事務所内に米を、倉庫に水、非常食(1週間分)を保管している。		今後は地域密着型サービスとして、ホームだけの訓練ではなく、地域住民を交えた訓練や協力が得られるよう働きかけに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者、個々に毎食の摂取量は記録し、一人ひとりの摂取量、塩分などを配慮して、配膳されている。水分については、常に湯呑みにお茶を入れて置いてあり、随時、水分補給してもらっている。食事の制限が必要な人も多いが、皆と同じものを提供し、量や盛り付けを工夫している。本を参考にし、カロリーの目安を考えながら献立を立てている。塩分も控えめにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や壁に入居者の作品や写真などが飾ってあり、外出した際に入居者と摘んだ野花をリビングに生け、季節感を楽しんでいる。季節にちなんだ飾り物も掲示されている。廊下には長椅子が置いてあり、個々や入居者同士過ごせるよう工夫している。行事で出かけた時の写真や動物の写真が飾ってあり、気持ちを和ませるのに役立っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居者個々で飾りつけをしている。本人の好きな写真を飾っている人もいれば、植物や盆栽を世話している入居者もいる。転倒予防のためベットの足を外すなど工夫をしている。各居室には火災報知器が設置してある。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。